

科目ナンバー	C3102	要件	学則必修	授業形態	講義	対象学生	I A B III C D
授業科目	保育者論						
実施期	前期	単位数	2単位	授業担当者	恒岡 宗司		
【科目の概要】							
保育者を目指す自覚を高めるための自己課題とその解決に向けた努力事項を考えるとともに、保育者としての専門的知識や保育技術を身に付け、高い倫理観と職業観についても具体的に学ぶ。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	保育者として必要な環境構成や援助の在り方等の専門的知識や保育技術、倫理観をもつことの必要性について理解している。						1-d
イ	子どもや保護者との信頼関係を築いていく上での様々な遊びの技法、コミュニケーション力を身に付けている。						2-b
ウ	保育のもつ養護と教育の役割について、保育事例から課題を見だし、解決のための手立てや工夫についてフィードバックによる成果を生かしながら考えることができる。						3-b
エ	子ども理解の必要性や幼小接続の重要性に関心をもち、自分の保育観を培いながら、保育実践への意欲と自信、高い職業観を向上させようとしている。						4-c
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	保育者論で学ぶこと			月 日	教科書目次を読んで学習の概要を知っておく。		
2	保育の目的と子どもにとっての遊びの意味			月 日	教科書第2章を読む。(1時間)		
3	保育者の一日の仕事(保育所・幼稚園)			月 日	『実習の手引き』(幼稚園編)を読んでおく。(0.5時間)		
4	保育者に求められる資質(倫理観と職業観)と専門性			月 日	教科書第1・第5章を読んでおく。(1時間)		
5	子どもの社会性の育成(社会性の具体的内容)			月 日	配付資料を読んでおく。(1時間)		
6	子どもの社会性の育成(事例を通じた課題研究)			月 日	幼稚園教育要領解説の関係ページを探しておく。		
7	子どもの社会性の育成(課題解決に向けた意見発表と内容に対するフィードバック)			月 日	配付資料を読み直す。(0.5時間)		
8	新人保育者に求められる資質と専門性(1)(本学卒業生の場合) [獲得を目指す力の確認]			月 日	自分の意見をまとめておく。(0.5時間)		
9	新人保育者に求められる資質と専門性(2)(自己課題についての意見発表とフィードバック)			月 日	配付資料を読み直す。(0.5時間)		
10	保育者に求められる危機管理(火災・地震・不審者・食物アレルギー等を事例としたロールプレイ)			月 日	配付資料を読み直す。(0.5時間)		
11	保育者の資質向上につながる保育記録と保育カンファレンス			月 日	教科書第3・4章を読んでおく。(1時間)		
12	保育と様々な社会資源の活用(子育て支援を支える地域との連携)			月 日	自分の意見をまとめておく。(0.5時間)		
13	幼小接続問題とアプローチカリキュラム(意見発表)			月 日	意見交換の成果を振り返る。		
14	保護者との信頼関係を築くために(保護者からの強い要求への対応)			月 日	配付資料を読んでおく。(0.5時間)		
15	保育現場での同僚性と協働性(発表とフィードバック)			月 日	テスト勉強をする。(2時間)		
16	まとめと試験			月 日			
【教科書・テキスト】 保育者論 汐見稔幸、大豆生田啓友 編 ミネルヴァ書房				【成績評価の方法】 試験 60% レポート・ミニレポート提出 20% 授業への意欲・態度 20%			
【参考書・教材】 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書							
【履修要件及び履修上の注意事項】 授業では教科書のほか、幼稚園教育要領解説及び保育所保育指針解説書も持参すること。(使用する場合は前時に予告)							
【履修上の遵守事項】							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先: N6 (恒岡) 研究室 オフィスアワー:							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア①	保育における環境の意味理解、環境構成の役割と技術		保育の基本としての環境の意味と環境構成の役割について述べることができる。	幼稚園教育の領域「環境」と保育所における「保育の環境」の意味について、整理してまとめることができる。	保育の技術としての環境構成を指導案に具体的に記述していくことができる。
ア②	援助の教育的意味、援助技術と機能、高い倫理観		保育者の援助の教育的意味と、保育者に求められる高い倫理観について述べるができる。	子ども理解に基づく援助の在り方について、2～3例を事例として挙げるができる。	援助の果たす役割・機能を理解し、望ましい援助技術の例を整理して説明できる。
イ①	遊びの種類、遊びの指導における援助方法		季節や天候、行事に合わせた屋内遊びや屋外遊びを、それぞれ5つ以上紹介できる。	子どものルール提案に柔軟に対応できる遊び方を考えて述べるができる。	実習で紹介したい遊びとして10以上の種類と遊びの提案の仕方を説明できる。
イ②	適切な言葉遣いと態度、コミュニケーションのとり方、トラブルの対処方法		子どもとのコミュニケーションのとり方として、保育者として適切な態度がとれる。	子どもや保護者の話を丁寧に聞き取る姿勢を身に付けることができる。	遊びでのトラブル場面のロールプレイを通して、保護者に適切に伝える対処方法を説明できる。
ウ①	生命の保持・情緒の安定の大切さ、環境づくりの重要性と工夫点		保育所保育指針から、子どもの発達過程に合わせた養護面での適切な関わり方を考え判断することができる。	生命の保持、情緒の安定のための保育者の役割について、自分の考えをまとめることができる。	子どもの発達上の課題について考え、保育における環境づくりの重要性と工夫点を説明できる。
ウ②	幼稚園教育要領5領域からみた指導事例、指導上の留意事項		1日の保育での指導場面を5領域に照らして、具体的な場面として2例程度考えることができる。	5領域の内容に関する留意点について、2～3の具体的な場面を考えて簡潔に説明できる。	園生活にみられる指導場面での留意点を考え、3～5例程度の具体的な事例を意見としてまとめることができる。
エ①	個別の子どもの課題（発達障害、食物アレルギー、疾患、児童虐待、経済的苦境等）		子どもの中には食物アレルギーなど個別に配慮すべき課題を抱えているケースが増えていることを意識できている。	虐待や経済的苦境等の影響を受けている子どもの事例に関心をもっている。	発達障害等に関する専門的知識を生かした子どもへの適切な関わり方について、自分なりの問題意識をもち続けている。
エ②	保育者の職務、社会性の育成、幼小接続問題、アプローチカリキュラム		集団の中での子どもの社会性の育成の重要性について関心をもっている。	保育所・幼稚園に子どもを通園させる意義について保育者の立場から関心をもって考えている。	幼小接続問題の重要性と、アプローチカリキュラムについて理解しようとする意欲をもっている。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					